

# 緑野

札幌市立札幌中学校 学校だより

令和元年度 第9号(431号)

令和元年(2019年)10月31日発行

発行責任者 遠藤 壽廣

<http://www.satsunae-j.sapporo-c.ed.jp>



## 第44回学校祭が終わる

### 「協力して作り上げた一つの劇」 1年2組 藤原ゆき(ステージ部門)

私は、学校祭準備期間中、ステージ部門のリーダーとしてみんなをまとめました。まとめるのは難しく、最初は先生の手を借りていましたが、副リーダーやプロジェクトメンバーの人が支えてくれて、まとめることができました。

私は、今回のステージ発表はとても良かったと思います。役者の人は勿論、照明や音響、背景などの裏方の人も頑張っていました。長い練習を積み重ねた劇が終わった後は、達成感で満ち溢れていました。ステージ部門のみんなは、全力を尽くし、練習と真剣に向き合ってくれました。だからこそ、このような素晴らしい劇が完成したのだと思います。



### 「学校祭の振り返り」 1年3組 齋藤愛斗(1年教室)

私は、1学年教室部門Bで、「なぜ、ペン回しは人気があるのか」というテーマについて調べました。この学校祭で、私は、自分の好きなことを調べ、テレビやパソコンを用いて発表する、という、いわゆる「プレゼンテーション」を行いました。発表するにあたって大切なことは、いかにわかりやすく伝えるかということですが、今回の発表ではそれについて考えることが多くありました。

ペン回しには専門用語が無数にあります。それをみんなも知っている言葉に変換し、わかりやすく伝える、ということは何度もしていました。そのうちに、「分かりづらいものをわかりやすく、複雑なものを簡潔に」という簡略化する力が、大切だと考えました。

この学校祭で身に付いた要約、簡略化する力を今後の学校生活、そして社会生活にも活かしていきたいと思います。



### 「学校祭を振り返って」 1年5組 鈴木佑里菜(1年装飾)

私の部門は装飾でした。1年生の装飾のテーマは花火で、1年2組と3組の装飾を作りました。一番頑張ったことは、つるを作ることです。グループの人と協力して、ていねいに作ることができました。二番目に頑張ったことは、グループの装飾です。花火の大きさを変えて作りました。色を工夫して頑張りました。当日の教室を見たときにきれいだったのでよかったです。

当日に他の部門の発表を見てわかったことは、どの部門もみんなが楽しめる企画を考えていたことです。学校祭は、みんなの力が集まってできていることがわかりました。来年も、どの部門に入るのかはわからないけど頑張りたいです。



## 「後悔の残る学校祭」吹奏楽部部長 3年1組 小野寺佳音

私たち吹奏楽部は、学校祭で15分ほどの演奏をさせていただきました。その15分は長いようでとても短い時間でした。

私たちは学校祭の準備を8月中旬頃に始めました。例年は1か月ほど前に曲を決めていましたが、それでは間に合わないと思い、早めに曲を決め、練習を始めることにしました。この時は学校祭までに余裕を持って完成させることができると思っていたのですが、そうはなりません。本番の1週間ほど前にやっと曲を通して演奏できるようになり、満足のいく演奏をすることができませんでした。質の低すぎる演奏ではなかったかもしれませんが、準備次第ではもっと良い演奏ができたかもしれないと思うと、後悔が残る学校祭になってしまいました。

長時間でダラダラ練習するよりも短時間で集中して練習する方が大切だということを改めて感じた学校祭でした。



### 吹奏楽部 第2回定期演奏会が開催される

9月29日(日)に、吹奏楽部による第2回定期演奏会が、札幌国際交流館ライラックホールで開催されました。たくさんの保護者、ご家族の方々においでいただきました。

今年の吹奏楽コンクールで演奏された「西遊記～天竺への道～」や2018年にヒットしたJポップのメドレーなどが演奏され、音楽とともに楽しいひと時となりました。吹奏楽部のさらなる活躍に期待しています。

札苗中学校吹奏楽部  
第二回定期演奏会



2019.9.29(Sun)

《開場》13:00 《開演》13:30

札幌国際交流館ライラックホール

《入場料》500円

《主催》札苗中学校

## 学校図書館へ行こう！

10月上旬に、本校の図書館で「サケの一生」が勉強できる教材が展示されました。サケの一生が分かるすごろくや、サケの皮で作った靴、サケの重さを体験できる模型など、興味深い展示品がいっぱいでした。学校図書館司書の水野さんが、北海道とゆかりある魚に興味関心をもってもらえるよう準備してくださいました。また、図書局員のお薦め本のPOPも紹介されていました。こうしたPOPによる紹介が、多くの人の読書のきっかけになればと思います。

10月27日から11月9日までは、読書推進運動協議会がすすめる読書週間です。なかなか本と向き合うことができない人も、ときどきはスマホやゲームから離れて、読書に親しんでほしいと思います。



左：サケの実際の重さを体験することができる模型  
右：生徒がお勧めする本とそのPOP

